免許状更新・10年教諭研究会

研究経過

講師　横　山　　文　樹　先生
（昭和女子大学人間社会学部初等教育学科教授）

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月21日（水）	講師：神蔵　幸子先生（洗足こども短期大学教授） 「幼稚園教育内容を深める（1）」	D1－Ⅲ	75
2	6月18日（水）	講師：神蔵　幸子先生（洗足こども短期大学教授） 「幼稚園教育内容を深める（2）」	E5－Ⅲ	75
3	9月17日（水）	講師：石濱　加奈子先生（洗足こども短期大学講師） 「からだ遊びで発達を促す」	E5－Ⅱ	95
4	10月15日（水）	講師：長谷川　真由先生（洗足学園音楽大学講師） 「日本の伝統音楽・文化を子どもたちに」	E6－Ⅱ	95
5	11月19日（水）	講師：並木　真理子先生（洗足こども短期大学准教授） 「子どもの言葉の発達と発達に即した視聴覚教材」	E6－Ⅲ	95

◆研究参加園（29園）

江川幼稚園	若宮幼稚園	川崎頌和幼稚園	第一ひかり幼稚園
梅園幼稚園	小峰幼稚園	白山幼稚園	月影学園幼稚園
東住吉幼稚園	大楽幼稚園	若竹幼稚園	たちばな幼稚園
津田山幼稚園	川崎たまがわ幼稚園	有馬白百合幼稚園	健爽学園ゆりかご幼稚園
さぎぬま幼稚園	ひばり幼稚園	宮崎台幼稚園	菅幼稚園
東菅幼稚園	桐光学園みどり幼稚園	玉幼稚園	玉川幼稚園
桐光学園寺尾みどり幼稚園	柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園	こうりんじ幼稚園
ちよがおか幼稚園			

第１回免許状更新講習・10 年教諭研究会
月　日　平成 26 年５月 21 日
場　所　ユニオンビル
講　師　神蔵　幸子先生
（洗足こども短期大学教授）
テーマ：幼稚園教育内容を深める（1）
俯瞰図番号　D1 －Ⅲ

１　本講座での内容のポイント
(1) 幼稚園教育に関係する基本法律の改正点を確認する
教育基本法改正
学校教育法改正
幼稚園教育要領改正
(2) 各法律の改正点から浮かび上がった保育内容に関するテーマ
義務教育及びその後の教育の基礎を培うことについて
日本の伝統文化と保育内容の関連

２　理論と実践の統合に向けて
☆幼稚園教育は環境を通して行う教育である。では、何を重視しているか
1. 幼児期にふさわしい生活の展開
・教師との信頼関係に支えられた生活(子どもが安心して遊べる)
・興味や関心に基づいた直接的な体験(触れたり、匂いをかいだり）が得られる生活（子どもの興味や関心を引き出せるような生活）（テレビなどは直接的ではない）
・友だちと十分に関わって展開する生活（同じ年代と遊ぶ、友だちと生活する。大人とは違う生活）
2. 遊びを通しての総合的な指導
遊びの中で体験する。（遊びの中で 10 まで数える、生活の中で算数を知る。触れる。遊びや生活の中で算数に触れてから小学校に入学する。）自分で発見、体験する。
3. 一人ひとりの発達の特性に応じた指導
一人ひとり、その子らしさを感じて、保育の中で友達の中で生かされているか。

３　法律に示されている幼稚園教育
(1) 教育基本法 2006 年改正では、義務教育前の家庭教育（第 10 条）や幼児期の教育に初めて言及された。
・幼児期の教育を「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」と定義づけられた。

(2) 教育法 2007 年改正
・改定前の文章に「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」が加えられた。

幼稚園と小学校の違い（比べてみよう）

幼稚園・・・義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。
５領域に基づく保育
教師は子どもが伸びていくのを援助する。

小学校・・・心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする。
学習指導要領をもとに授業という形で施す。
どちらかと言うと教師が主体となる「授業」

４　義務教育及びその後の教育の基礎を培うとは（小学校に入学するための教育ではない。）

文字や数を教えるわけではないが、ホワイトボードに時計を掛けておく。その隣に手作りの時計を置く。10時半になったら○○をしようね。と伝えると共に、時計をみると10時半が形として分かるようになる。子供が関心を持った時に生活の中で取り入れて関心を持たせることが幼児教育では大切である。

学ぶことが楽しい。その後、小学校に行った時に面白い、楽しそうと感じることが大切。小学校を先取りしてはいけない。

小1プロブレム　　小学校と幼稚園の連携
小学校と幼稚園の段差がないほうがいいと思われているが、少しくらいの段差があったほうが子どもたちも乗り越えられるのではないかと思う。

小学校が幼稚園に対して、どんなことを求められているか。

・結果を出すことが子供たちに求められている。
・最後まできちんと取り組める。
・区切りをつけて生活ができる。
・見通しをつけて、意識して生活ができる。

伝統文化に関する教育の取り組み

幼稚園の実践について

・昔の遊びを経験する　　老人ホームに出向いて、コマまわしやけん玉など遊び方を教えてもらって一緒に行う
・日本の楽器に触れる　　三味線や和太鼓、琴を演奏する方を呼んで生の演奏を聴く
・日本文化の作法を学ぶ　　正座や立ち方など、日本舞踊や茶道の先生を招いて作法を学ぶ
・地域の文化財に触れる　　古いお寺や建物、お風呂屋さんなどに行って古い建物に触れる

来月の研修につなげる内容

・来月の研修会までにしてほしいこと

「はないちもんめ」について
わらべ歌は、音も少なく、子どもも歌いやすい。地方によってイントネーションが違うが、それがよいと思う。
文化財研究では「はないちもんめ」は鬼ごっこに分類されている。そして、遊びの中でもむずかしいとされている。

・来月までにクラスで「はないちもんめ」をやってみよう。
　様々な学年で「はないちもんめ」をやってみて、どんな違いがあるか。

まとめ

伝承遊びについて
わらべ歌遊びを保育の中に取り入れることが出発点。地域のお祭りに参加することで、本物に出会う（おみこしや獅子舞い）ことで、子どもたちが自然とおみこしづくりをはじめる。先生が意識してやらせるのではなく子どもたちも見ていることで、意欲的に活動に参加する。お囃子を生で聴くことで、子どもたちの耳に自然とはいって、お囃子のリズムを自然ととるようになる。それが、伝承していく。保育に反映していく。
地域のお祭りなど先生たちがお手伝いすることで保育に反映する。

食育について
地域の食材や季節の食材を使って給食を作ること（家庭ではできない）
どういう意味があるのか。

伝承すること、伝えることが大事なことではなく、経験して伝えることが大事なこと。

小学校に入るための準備を幼稚園でするのではなく、小学校で学習するために幼稚園では様々なことに興味を持って取り組む力を身につけたり、1つのことをじっくりと取り組む持続力を遊びの中でつけることの方が大事である。（遊びが大事である）

第２回　免許状更新講習・10 年教諭研究会
月　日　平成 26 年６月 18 日（水）
場　所　ユニオンＡ
講　師　神蔵　幸子先生
　　（洗足子ども短期大学教授）
テーマ：幼稚園教育内容を深める（2）
俯瞰図番号　E5 －Ⅲ

○演習 1

空間を見直す

①　部屋全体を座席から見回す　②立ちあがって見回す　③少し歩いて部屋の印象を捉える
④大きく移動して部屋の印象を捉える　⑤元の座席に戻って部屋を見回す
→環境を変え子どもの目の高さ、保育者の位置で立ち見直す事で発見があるかもしれない

○保育内容を深める

①現代の子ども達を取り巻く環境→３間…時間、空間、仲間が著しく減少している
・地域での場や子どもの社会集団がない→子ども達だけの遊び、異年齢の関わり、臨機応変な処理能力…つまり、大人の目がある中で遊ぶ時間か多かったり、異年齢の関わりが少ないことから遊びが伝わっていない現状。そして、公園で遊んでいる子どもを見かけなくなった現実
②家の仕事の手伝いをする必要がない
・生活技術→役割がない、手伝いをする習慣が薄い…色々な事が便利になり工夫できない傾向
③家族団欒の時間も少ない
・基本的なしつけ
・生活に裏付けられた親への信頼関係

○幼稚園でこそ得られる経験の実現

幼児にふさわしい生活の展開
①教師との信頼関係に支えられた生活
②興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活

③友だちと十分に関わって展開する生活

○主体的なあそび

・子どもの興味・関心を捉えた環境の構成と物の提示
・共通のイメージが持てる為の情報の提供
・発達に応じた人間関係の成立する場の広さの調整
・技能に合った物作りの提案・材料の準備
・あそびの流れ作りや目当てが持てるようなヒントの投げかけ
・あそべない子への援助

○生活習慣形成に向けて

・あそびの指導だけでなく、一日の生活の中には生活習慣形成に関わる保育場面が多くある。

環境や援助の工夫が必要である。（年齢による違い、１人１人の経験の違い）

援助のポイント

・幼児の安全と動線を考慮した保育環境作り
・発達や時期に応じた順序性のある繰り返しの指導（EX ハサミ）
・具体的な視覚に訴える絵カードや紙芝居などの教材作り
・必然性を伝える援助、状況作りの工夫

○学級全体の活動（課題活動、行事等）

・自発的な遊びを基本としても、一斉に指導する場面や、皆で同じ経験をする場面もある。

→一斉に行う活動にも多くの教育的意義が見出せる

援助のポイント

・活動の始まりの環境構成（終わり方まで考える。片付けまで子どもと一緒に行う）
・活動の展開に向けた幼児の動線を考えた環境作り
・説明は短く、分かりやすく

子どもにとってふさわしい園での１日
・幼児の自主的な活動と、教師の意図がバランスよく絡み合っている事
・主体的に遊びを創り出していく時間と一斉活動の時間のバランスが取れている事

○保育者に求められる事「子どもが好き」から出発して

『自ら学ぶ幼稚園教員のために』H14 幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書より抜粋

・幼児を内面から理解し、総合的に指導する力
・具体的に保育を構想する力
・教員集団の一員としての協同性
・保護者及び地域社会との関係を構築する力

○ DVD「遊んで僕らは人間になる」より

広島　かえで幼稚園

・運動会の競技種目の一つ、どれだけ箱を高く積めるかクラス対抗で行う

→箱は子ども達が作り、更に作戦会議を練る。何度も試行錯誤しながら自分達のアイディアを出し合う（アイディアを出し合い、相手クラスに勝ちたい子ども達の心の動きが見られた）

第３回　免許状更新講習・10 年教諭研究会
月　日　平成 26 年９月 17 日（水）
場　所　中原区役所 501，502
講　師　石濱　加奈子先生
（洗足こども短期大学講師）
テーマ：からだ遊びで発達を促す
俯瞰図番号　E5 －Ⅱ

○睡眠、身体のつくり、あそびの傾向

①テレビゲームの出現や遊ぶスペースが減少
→公園等の禁止事項が多く、十分にあそべない空間になっている現状
②ケガをしやすい子どもが増加
→特に頭部（12.3％）顔面（46．6％）におけるケガ
→更にぶつかる対象物が、人ではなく、遊具等。ケガをしない身体作りを目指す
③朝食抜きで登園してくる子どもの増加
→親の欠如
④世界的にみても、寝る時間が遅い国
→保護者の生活スタイルに合わせる傾向があり、寝る時間が遅くなる
→夜になるにつれ、照明も暗くしながら脳に知らせていく
⑤寝かされる、起こされる、食べさせるという姿勢は間違い
→早く寝たい！早く起きちゃった！お腹すいた！になる工夫
⑥浮き指
→地面に足の小指が着かない子ども：1980 年（5.6％）2000 年（52.9％）
土踏まずの形成：1980 年（70％）2000 年（50％）
→歩く経験が少ない、靴ではなく、長時間サンダル類を履いているため
（サンダル類は負荷がかからないので適していない。）

○運動について

①習いごとに頼りすぎている。（特に運動系）
保護者はこれらで満足し、運動していると思いがち。ワクワク、ドキドキ体験は、子どもにとっては楽しいが、保護者は面倒に感じたり、汚れる、危ない等の理由で疎遠になりがちである。
→ワクワク、ドキドキの体験
・声を出すあそび
・筋肉を収縮させるあそび
・じゃれつきあそび
・雑巾がけリレー
・ドッジボール（全ての運動要素が入っている）
・ジャンプ、転がる、走る
・しっぽ取りあそび
・棒とりあそび
・ティッシュをお腹に付けて走る
・雑巾がけボール運び（大きなタオル、雑巾を２～３人でかける。その前にボールを置き、バランスを取りながら前進）

○生活環境

①日中は太陽の光を浴びる。起きる頃カーテンを開けるところから。
→ホルモンバランスが整う
②外遊びを十分に
→適度にあそぶ。ずっと動かなくてもよい。
③コンビニ、塾等の照明は眠くならない様になっている
④ TV、ゲーム類の明かりは強すぎる
→就寝前は控える。また眠りが浅くなる

○まとめ

快適過ぎる生活から脱却する。水道の蛇口の形が変わったり、雑巾が絞れなかったり、幼児がベビーカーに乗っているなど。生活全般を見直しながら、自分たちが発信者になる。

第４回　免許状更新講習・10 年教諭研究会
月　日　平成 26 年 10 月 15 日（水）
場　所　ユニオンビル
講　師　長谷川　真由先生
（洗足学園音楽大学講師）
テーマ：日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう
俯瞰図番号　E6 －Ⅲ

１．グループディスカッション

①幼稚園の運動会など、日々の活動で日本の伝統音楽・文化を取り入れたことはあるか

発表例）・エイサー
・和太鼓
・お琴
・あやとり
・竹馬
・花笠　　等

②園児があそびを伴い自発的に歌っていた歌はどんなものか

発表例）・あんたがたどこさ
・お寺のおしょうさん
・あぶくたった
・妖怪ウォッチ
・おちゃらか　　等

２．わらべうた実践

・わらべうた→地域によって歌い方が異なる。しかし肯定的に捉えること。
・「かくれんぼ」「かごめかごめ」→同時に歌える。「パートナーソング」

３．竹の楽器の特徴

・竹を切って乾かすだけで楽器になる
・フィリピンのカリンガ族が使用していた
・太さ、長さによって音が変化する→叩く、吹く、擦る、落とす様々な方法を用いる

実践

・グループごとに「ひらいた　ひらいた」の前奏をオリジナルで作る
→グループごとに発表

４．まとめ

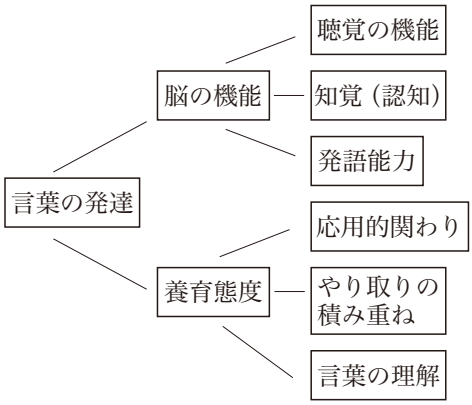
○さわって音色探し

・日本伝統音楽、文化からみるあそびの可能性
・わらべうたとは「育ちゆく生命力」
・「粋」な箇所には変位が大きい
・伝統とは変位し続けるもの
・あそびを通したコミュニケーションの１つにわらべうた（音楽的経験）と竹の楽器（環境設定）を取り入れてみてはどうか

第５回　免許状更新講習・10 年教諭研究会
月　日　平成 26 年 11 月 19 日（水）
場　所　ユニオンビル
講　師　並木　真理子先生
（洗足子ども短期大学准教授）
テーマ：子どもの言葉の発達に即した視覚教材
俯瞰図番号　E6 －Ⅲ

１．幼児の言葉の発達

言葉の発達



２．発語能力－話し方言葉

１歳前後：初語
［特性］
・初めて発する言葉（有意味後）
・異なる２つ以上の子音十母音の音節を持つ
・例）「ママ」「ババ」「マンマ」「バアバ」「ブウブ」

１歳頃～：一語文
［特性］
・一語で色々な意味を表現する
・例）「わんわん」と一語発する→「わんわん　いた」を意味する

２歳頃～：多語文
［特性］
・３語以上、複数の語を繋げて話す様になる
・例）「わんわん　いた　おおきい　ね」

２歳後半～
・複数の文を繋げて話す
・理由の説明
・例）「から」「たら」「のに」「バアバ」「ブウブ」
・質問期
・例）「なぜ」「どうして」

３歳頃～
・２文を接続詞で組み合わせられる。単文から従属分へ
・例）「そして」「それから」「だから」

４歳頃～
・過去、現在、未来を意識して話す様になる。
・例）「きのうね、おでかけして、おみやげかっだの。あした、おばあちゃんちにとどけるんだ」

５歳頃～
・言葉の自覚化、音節分解、音節抽出ができるようになる。
・しりとりあそび、かるたあそび、言葉集めができるようになる。
・例）「あか」＝「あ」と「か」
「あ」のつくもの＝「あめ」「あいす」

３．音韻と構音の発達（幼児音）

構音
・子どもが全ての音をほぼ正確に構音できるには、５．６歳～就学前までかかる。
・早く獲得できるはずの構音の誤りは５．６歳まで待たずに考える必要かおる。

音韻
・３．４歳以降で多くの語の音韻の言い誤りが認められる場合、音韻発達に遅れがある可能性がある。

構音の誤りの例	音韻の誤り
サ：タ、チャ、シャ	倒置：テレビ→テビレ
ツ：チュ	脱落：コップ→オップ
カ：タ	同化：アンパンマン→アンマンマン
ラ：ダ、ヤに近い音、抜け	

4．言葉を育む言語的関わり

反復スタイル

・子どもの発話を繰り返して確認したり、その前にした質問を繰り返したりが多い。発話自体も短く、情報量も少ない関わり方のスタイル。

精緻化スタイル

・子どもの発話を言い換えたり、発話について意味づけや新しい情報を足したり質問する事によって、ことばの表出を促すような関わり方のスタイル。

5．絵本と紙芝居の特性、違い

○絵本：

・「個」に対して作られたもの→「個」を育てる
・１ページごとの楽しみを味わう
・「めくる」という動作で読み合う
・読み手が「読む」もの
・集団に対しては、共感や感動の共有体験を生む

○紙芝居の特性：

・「集団」に対して作られたもの→「共感の感性」を育てる
・連動したお話の発展を楽しむ
・「抜く」「差す」という動作で読み合う
・読み手が「演じる」もの
・戻る事は禁止

6．年齢に合わせた絵本の選書と援助（環境と読み方のポイント）

０歳～

・言葉の音や響きやリズムを楽しみ、変化のある色や形がはっきりしている絵本
・「さわる、なめる、かじる」事に配慮した絵本

１歳頃～

・身近な出来事が題材で、ページをめくると絵の変化が楽しめる絵本「食べ物」「生き物」「乗り物」を中心に
・指差し行動が楽しめる絵本
・オノマトペ（擬声語、擬態語）を楽しめる絵本

２歳頃～

・たくさんの会話や発見ができ、読み手の真似をして繰り返しを楽しむ絵本

３歳頃～

・単純なストーリーの絵本
・できるようになる事がうれしい、楽しいということに共感できる絵本
・友だちとの出会いや遊ぶ楽しさに共感できる絵本

４歳頃～

・友だちと一緒に掛け合いを楽しむ絵本
・簡単なストーリーの展開を楽しめる絵本
・物の仕組みなどに興味が持てる絵本

５歳頃～

・空間や時間の感覚が楽しめる絵本
・生活のユーモアやナンセンスを楽しめる絵本
・物語性のある絵本

○乳児にとっての絵本

・絵本が「もの」から「絵本」へ

○２～３歳児にとっての絵本

・「個」から「集団」へ

○４～５歳児にとっての絵本

・「集団の中の個」の充実

7．子どもが絵本を手に取るとき

・保育者の読んだ絵本を選ぶ→聞いたお話を頼りに個で楽しさを求める
・絵本そのものへの興味で関わる
・他の遊びに取り入れる
・待ち時間や不安の解消場面での気持ちの安定をはかるものとして絵本に関わる

8．絵本設置環境ポイント

・他の遊びに左右されず、絵本をゆったり楽しむ時間とスペース
・遊びに取り入れやすい場所に設置

・遊びの興味に合った内容の絵本の選択
・表紙が見やすく取り出しやすい環境
→子どもの状況に合わせた様々な絵本の選書

9．今後の課題

○子どもの現状：子どもの遊びのデジタル化
→ 3S・・・「スピード」［スリル］「スキル」
→外遊び、絵本（読書）協同遊びなどへの興味が希薄化
○母親の意識の変化：絵本→読んであげるものから子どもが自分で読む物へ
→文字だけでの絵本、芸術性に触れる経験の不足
→想像力、コミュニケーション力の希薄化
保育者の課題
・子どもと会話を深める
・絵本を選ぶ目を養う
・絵本の設置環境の再結成
・「個」への読み聞かせ
・子どもの言葉による表現を高める視覚的教材の活用